

公表 児童発達支援事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|-----------|----|-------------|
| ○事業所名 | あ～すり～と | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2026/1/28 | | ～ 2026/2/15 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 13 | (回答者数) 13 |
| ○従業者評価実施期間 | 2026/1/28 | | ～ 2026/2/15 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 8 | (回答者数) 8 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2026/2/20 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|--------------------------------|-----------------------------------|
| 1 | 一人ひとりに合わせた柔軟で迅速な支援調整(相談→即プログラム反映) | グループ活動の中でも個別性を担保する支援体制(全職員で共有) | 保護者への情報共有方法の明確化(面談形式・報告タイミングの標準化) |
| 2 | 子どもが楽しみながら継続できる専門性の高い運動支援と信頼関係 | 限られた空間でも安全に活動できるよう時間・内容・配置を調整 | 活動環境の分かりやすさ向上(視覚的表示・導線整理・外活動活用) |
| 3 | | | |

| | 事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|---------------------------------|--|
| 1 | 活動スペースの制約により運動量や安全面への配慮が必要な場面がある | 利用二ースの高さに対し空間・時間資源が限られているため | 情報共有の仕組み化(連絡方法の明確化、報告時期の設定、記録の活用等)を図る。 |
| 2 | 情報発信や個別依頼事項の共有が保護者に十分届かない場合がある | 口頭連絡中心の運用により情報共有の仕組みが個別対応になりやすい | 空間的制約を補うため、活動運用の工夫(外部活動の活用、グループ編成の調整等)を推進する。 |
| 3 | | | |